

M^{CN} REPORT



vol. **65**

2026.10



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



contents

学長インタビュー	1
授業紹介 成人・老年看護方法VI	3
令和7年度卒業生 進路・国家試験データ	4
研究室訪問	5
連携協力協定機関紹介	6

看護の未来を切り拓く大学へ



令和8年4月、三重県立看護大学の学長に就任した吉沢豊子学長に、今後の展望や、学生への思いについて語っていただきました。

先人の理念と歴史を礎に、未来の大学を考える

Q. 本学にはどのような印象を持たれていますか。

本学には、看護学を学問として確立しようとした先人たちの強い理念と、その実践の歴史があります。

看護系大学がまだ少なかった時代、看護教育は医学の枠組みに付随するものとして語られることが多く、「看護学」という独自の学問体系を確立することが大きな課題でした。そのなかで本学は、看護学を中心に据えた大学づくりを目指し、初代学長の前原澄子先生をはじめ、多くの先駆者の努力によって発展してきました。

また、看護職の資格を持つ教員が看護学を教え、次世代の看護職を育てるという理想を実現してきた大学でもあります。当時としては非常に先進的な取り組みであり、その理念に支えられて今日の本学があると感じています。

一方で、大学創設から約30年を迎えようとする今、「これからの時代に必要な看護大学とは何か」を改めて問い直す時期に来ているとも感じています。これまで築いてきたものを大切にしながら、次の時代に向けてどのような大学であるべきかを教職員全員で考えていく必要があります。

自ら考える力を育てる教育を

Q. 本学の学生について、どのように感じていますか。

本学には、優秀な意欲ある学生が多く集まっています。

ただ、その力を十分に伸ばし切れているかという点、まだ可能性があるとも感じています。

最近の学生は、与えられた課題を着実にこなす力は高い一方で、自ら課題を発見し、優先順位を考えながら判断する力については、さらに伸ばしていける余地があります。

これからの看護職には、自ら考え、状況を分析し、主体的に行動する力が求められます。そのため、教員には学生一人ひとりの可能性を引き出し、成長を促す教育が期待されていると思っています。

教育への想いが本学の強み

Q. 本学の強みはどこにあるとお考えですか。

最も大きな強みは、教員の教育に対する熱意です。

本学の教員は、学生一人ひとりに非常に丁寧に向き合っています。これまで複数の大学に所属してきましたが、本学ほど学部教育に真摯に取り組んでいる教員集団は珍しいと感じています。

その熱心さは本学の強みである一方、今後は限られた資源をどのように活用しながら教育や研究を進めていくかという視点も重要になります。

地域課題に向き合う大学へ

Q. 今後の大学の役割について教えてください。

学長就任後、東紀州地域や離島で医療活動に携わる方々からお話を伺う機会がありました。そのなかで、それぞれの地域に埋もれている課題や資源に対し、大学がこれまでに以上に積極的に関わる必要性を強く感じています。地域特有の健康課題を掘り起こし、その背景や要因を研究することは、地域住民のQOL(生活の質)の向上につながる大きな可能性を持っています。

また、オンライン診療における「D to P with N (Doctor to Patient with Nurse)」について地域で活動されている医師の方とお話しし、患者の状態を的確に評価し、その情報を医師へ伝える看護師の役割の重要性を改めて認識しました。今後の地域医療を支えていくためには、ナース・プラクティショナー(診療看護師)をはじめ、高度な判断力と実践力を備えた看護人材の育成が不可欠です。そのため、大学には地域や行政と連携しながら人材育成に貢献していくことが求められています。

地域課題を教育や研究のテーマとして発掘し、その解決につなげていく。その積み重ねこそが、本学の特色となり、地域社会への大きな貢献につながると考えています。

これからの社会を支える人材育成

Q. 教育面ではどのような発展を考えていますか。

地域医療やへき地医療に関する学びをさらに充実させていきたいと考えています。本学では現在、「三重を知ろうI・II」など地域を理解するための科目を設置していますが、今後は看護学実習においても、地域そのものを学びの場として捉える発想がより重要になるでしょう。



また、国際交流のあり方についても考えていく必要があります。国際化は海外との交流だけを意味するものではありません。三重県内にも外国にルーツのある方が多く暮らしており、多文化共生社会の中で看護職としてどのような支援ができるのかを学ぶことが重要です。

これからの社会では、多様性や包摂性の視点も欠かせません。国籍や文化的背景、障がいの有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる社会の実現に貢献できる人材を育てていきたいと考えています。

看護職を目指す学生や高校生の皆さんへ

これからの看護職には、社会を支えるエッセンシャルワーカーとしての役割に加え、高度な専門性を持った実践者や研究者として活躍する可能性があります。

本学では、学部教育だけでなく大学院教育も含めて、皆さんの将来のキャリアを支えていきたいと考えています。

ぜひ資格取得だけを目標にするのではなく、その先にどのような看護職になりたいのか、どのように社会に貢献したいのかを思い描きながら学んでほしいと思います。

看護職は、これからの社会を支える重要な基盤となる職業です。その未来を担う人材として、大きな志を持って挑戦してほしいと思います。

学長 PROFILE

吉沢 豊子

千葉大学看護学部、千葉大学大学院看護学研究科修士課程及び博士課程にて学位を取得
東北大学医学部副学部長、東北大学大学院医学系研究科副研究科長、関西国際大学保健医療学部学部長等を歴任
専門はウィメンズヘルス看護学。主な研究テーマは性周期・月経研究、更年期研究、コペアレネティング研究、父親・男性研究、愛着研究など。

私が研究者・教育者の道を選んだ理由

私が高校生の頃は、女性が活躍できる職業は限られていました。そのなかで看護職を選び、短期大学卒業後に助産師として働くなかで、「もっと深く看護を学びたい」という思いが強くなりました。ちょうどその頃、看護学を体系的に学べる学部への編入学制度や大学院教育が広がり始めており、20代後半で学びの場に進むことを決めました。

学部や大学院では、看護学の発展に尽力された多くの先生方と出会い、看護学とは何か、看護職が社会に果たす役割とは何かを深く考える機会をいただきました。そうした学びや出会いが、研究者・教育者として歩む現在の私の原点になっています。多くの方々との出会いと支えに恵まれたからこそ、今があると思っています。

大切にしている言葉

「自分がエンjoyできなければ、人を援助することはできない。」学生時代に会った看護教育者の言葉です。看護は奉仕や献身の仕事として語られることもありますが、自分自身が心身ともに満たされ、充実していなければ、人を支えることはできません。看護職として働く人自身の幸せや生活の質も大切にしながら、人々の健康や暮らしを支えていく。その考え方は、現在の教育や研究の根底にもつながっています。



主体的に学び、考え、 根拠に基づいた看護実践力を養う

成人・老年看護方法VI

看護には、確かな技術力だけでなく、患者の状態を的確に把握し、自ら考え判断して行動する力が求められます。本学では、実際の臨床場面を想定した事例演習を取り入れ、看護実践力の育成を行っています。今回は、看護学部3年次の前期で履修する科目「成人・老年看護方法VI」の授業で行われる演習の様子をご紹介します。

なぜ、その看護が必要なのか？

「成人・老年看護方法VI」では、成人期および老年期にある患者の生命危機への対応や療養生活の支援に必要な看護技術と、それを実践するための態度を身に付けます。また、患者の病態や状態に応じて適切にフィジカルアセスメント（身体の状態を観察・評価し、健康状態を把握すること）を行う能力の修得も目指しています。

演習の授業では、

- 患者の状態に適した援助方法を考える
- 看護技術を実践する
- 実践を振り返り、気づきを得る
- 改善点を見出し、次の実践に活かす

というプロセスに沿って学習を進めます。

技術演習に先立ち、学生は事前課題として提示された事例への実践に向けてグループで検討します。一人ひとりが根拠に基づいて意見を出し合い、患者の状態に適した安全・安楽な援助方法を考える力と患者の反応を捉える力を養います。

技術演習で実践力を身に付ける

グループでの実践方法の検討後には、実践につなげるための技術演習を行います。

6月には、経鼻経管栄養法の演習を実施しました。経鼻経管栄養法とは、食事を口から摂ることが難しい患者に対し、鼻から挿入したチューブを通して栄養を届ける方法です。

学生たちは、グループで検討した方法を基に、看護師役と患者役を経験しながら演習に取り組みます。演習では、物品や栄養剤の準備から始まり、患者の体位の調整、栄養チューブの位置確認、聴診器による気泡音の確認、栄養剤の注入、患者の状態観察や適切な声かけなど、一連の看護技術を実践的に学びます。

演習後にはグループで振り返りを行い、気づいたことや課題について意見交換を行います。グループでのディスカッションや教員からの指導を通して改善点を見い出しながら、看護実践力を着実に身に付けていきます。



グループで経管栄養の実践方法を検討



経鼻経管栄養法の実技演習



演習の振り返り



「根拠をもって考え、実践する力を育む」

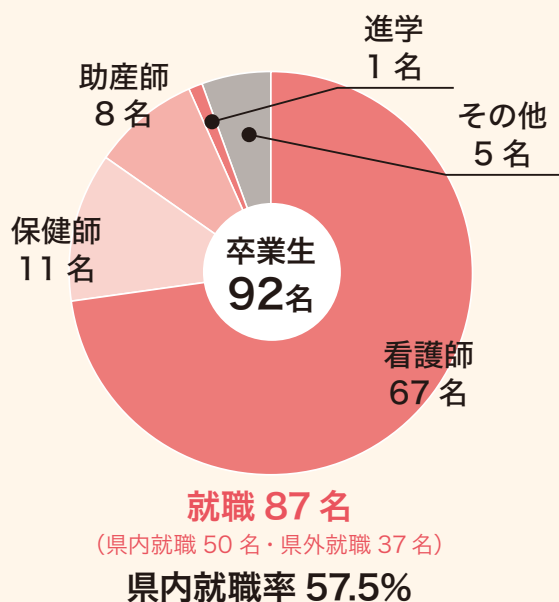
成人慢性期看護学 関根 由紀 准教授

「成人・老年看護方法VI」は、これまで学んだ知識や技術を臨床でどのように活かすかを考え、実践につなげる力を身につける科目です。演習では、学生自らが問いを立て、実施方法や改善点を考え、試行錯誤を重ねながら看護技術を磨いていきます。また、「なぜ、この観察を行うのか」「なぜ、この方法が良いのか」を考えることも大切にしています。実習や将来の臨床において、対象となる方々の状態を捉え、根拠をもって看護を実践できるよう、多くの教員で学生の学びを支えています。

令和7年度卒業生 進路・国家試験データ

進路

令和7年度卒業生の進路



主な進路

県内就職先

- 三重県立総合医療センター
- 三重大学医学部附属病院
- 伊勢赤十字病院
- 済生会松阪総合病院
- 市立伊勢総合病院
- 藤田医科大学七栗記念病院
- 鈴鹿中央総合病院
- 三重県
- 四日市市
- 伊勢市

県外就職先

- 愛知県 藤田医科大学病院
- 愛知県 名古屋市立大学病院
- 愛知県 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
- 愛知県 名古屋大学医学部附属病院
- 愛知県 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院
- 愛知県 東海市

進学先

- 北海道教育大学函館校養護教諭特別別科

進路のサポート

学生1人につき教員が2人1組で、進路の相談を含めた学生生活を支援するチューター制を導入するとともに、看護師・保健師・助産師の3職種別の就職相談窓口となる教員を配置し、一人ひとりの進路決定をサポートしています。さらに、さまざまな支援イベントも実施しています。

就活講座

就職活動の進め方や就職試験のポイントなど、時期に合わせた内容の講座を年に2回実施しています。

ようこそ先輩

在学生と卒業生の交流イベントで、3職種で活躍する卒業生や大学院生から、進路選択や就職活動・進学などについて体験談を聞くことができます。

就職説明会

県内の医療機関・行政機関の方にお越しいただく合同説明会で、それぞれの機関の特徴や職場環境などについてご紹介いただきます。



国家試験

令和8年2月実施の国家試験結果

	看護師	保健師	助産師
受験者数	92名	92名	8名
合格者数	89名	85名	8名
合格率	96.7%	92.4%	100%
全国(新卒)合格率	94.1%	89.9%	99.8%

国家試験のサポート

模擬試験

3年生の3月に実施する「専門基礎科目実力確認テスト」、4年生の6月～1月に実施する「国家試験対策模試」で定期的に実力を把握します。

チューターからの支援

模擬試験の結果などから、必要なときにはチューターの教員が個別に指導できる体制を整えています。

精神障害と地域社会 — 現場の実践を理解する

社会学

浦野 茂 教授

重い精神障害をもつ人たちが地域社会で暮らすにあたってどのような課題があり、それがどう取り組まれているのか。これがここ10年の私の研究テーマです。

じつはこのテーマは、60年ほど前に社会学者E. ゴフマンが北米社会の状況を前にして取り組んだものです。当時の北米社会では、大規模精神科病院への患者収容が批判され、患者の地域生活への支援が進められようとしていました。それでも患者たちは依然として地域社会のなかで孤立せざるをえないでいる——ゴフマンはこうした状況とその訳を、精神障害が日常生活のなかで招かざるをえない道徳的コンフリクトに着目して、描き出しました。

長らく指摘されてきましたが、日本社会もこの難題に本格的に取り組まなければならない状況にあります。こうしたなかで精神障害をもって地域で暮らす人たちを支援する「地域精神医療」の取り組みが進められてきました。障害が地



昨年度後半にはヘルシンキ大学に客員研究員として滞在し、課題の研究を進めてきました。写真は受け入れ先の教授（Ilkka Arminen さん）にヘルシンキ郊外の海辺の公園で撮ってもらいました。

域の社会関係と接するなかで生じる道徳的コンフリクトに対応することが、その重要な課題のひとつとされています。

では、このコンフリクトはどのように生じ、実践者たちはこれにどう対応しているのでしょうか。この点を私はフィールドワークを通じて学んできました。スケールはとてもミクロではありますが、これを通して地域精神医療という取り組みの内側にある社会を描くことを目指している、と考えています。

研究室訪問

専門職の思いをつなぎ、母子と家族が 安心して子育てできる地域へ

公衆衛生看護学

松本 智美 助教

妊娠・出産・子育ては、喜びに満ちた時間である一方、不安や戸惑いを抱えやすい時期でもあります。私はこれまで、助産師として病院で妊産婦を支援するとともに、保健師として地域で母子と家族に関わってきました。助産師と保健師は、「母子と家族を支えたい」という共通の思いを持っていますが、病院と行政機関では、組織の役割や勤務体制、業務の進め方などが異なります。互いの忙しさへの配慮から、相手の状況を推し量り、情報を補い、タイミングを見計らうなど、業務として明確に位置づけられていない「見えない仕事」によって、支援がつながっている場面もあります。その経験から、病院と地域、それぞれの立場から母子を支える専門職が、互いの役割や置かれている環境を理解し合うことの重要性を感じてきました。

そこで私は、「母子保健における切れ目のない支援」と



いうテーマで、助産師と保健師それぞれが感じている連携の課題と、連携を支えている双方の思いに着目して研究しています。両職種の視点から連携の実態を明らかにし、それぞれが無理なく専門性を発揮しながら協働できる仕組みのあり方を考えています。

専門職一人ひとりの熱意や頑張りを個人の負担で終わらせず、組織や地域の力へとつなげていく。その積み重ねによって、母子と家族を地域全体で支え、誰もが安心して子育てできる社会につながればと考えています。

連携協力協定機関紹介



三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院



急性期医療の現場で、ともに学び、ともに成長する看護へ



松阪中央総合病院は、JA 三重厚生連の基幹病院として、地域の皆さまに安心して医療を受けていただけるよう、急性期医療を中心に地域医療を支えています。救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院として、救急医療から専門的な治療まで幅広い役割を担っています。

看護部では、患者さんの状態や思いを理解し、その人に必要な看護を考え、実践できる看護師の育成を大切にしています。急性期の現場では、変化する患者さんの状態を的確に判断する力が求められます。チームで支え合いながら、一人ひとりの患者さんに向き合う看護を実践しています。

教育では、キャリアラダーに沿った継続教育を行い、先輩看護師をはじめ、部署のスタッフが一人ひとりの成長に寄り添い、支えています。また、認定看護師や特定行為研修修了者など、専門性を持つ看護師から学ぶ機会もあり、自分の目指す看護を深めることができます。

三重県立看護大学とは、臨地実習をはじめ、教育・研究活動を通じて連携しています。学生の皆さんが看護の楽しさや奥深さを感じ、将来の自分を思い描けるよう、学びの場づくりを大切にしています。

地域を支える急性期病院として、そして看護師が学び、成長できる場所として、これからも進化し続けます。皆さんとともに未来の看護を創っていける日を楽しみにしています。
(看護部長 瀧口 早弓)

病院情報

三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院 (昭和 36 年 7 月 開設)

- 病床数：一般病床 440 床
- 診療科目：25 科 内科、循環器内科、血液内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、精神神経科、外科、整形外科、脳神経外科、胸部外科（心臓血管外科・呼吸器外科）、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、麻酔科、リハビリテーション科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、形成外科
- 職員数：職員数 920 人（うち看護師 470 人） 令和 8 年 9 月 1 日現在

さらなる発展と人材育成の充実に向けて ～学生支援のための基金への寄付のお願い～

本学では、三重県の保健・医療に貢献する意欲があり、進学にかかる目的や意志が明確であるにもかかわらず、経済的な理由により進学が困難な方に対して、修学に要する経費の一部を給付奨学金として支給することにより、本学への進学を後押ししております。

こちらの事業は、おかげさまで、皆さまからの温かいご支援により、総額 1,175 万円（令和 8 年 8 月末日時点）ものご寄付を賜り、例年、経済的な支援を必要とする本学の学生へ援助を実現し、学生たちにとって学業を全うする非常に大きな励みとなっております。

今後も、一人でも多くの学生を支援するとともに、保健・医療の現場で活躍する優秀な人材を育成し、本県の保健・医療・福祉の向上に貢献していきたいと存じますので、引き続き格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お申込み

※二次元コードからお申込みの程よろしく願いいたします。

○寄付申出書

個人・法人の別なく税制上の優遇措置を受けることができます。

○三重県ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）

ワンストップ特例制度により、確定申告手続きを要さず、翌年度の住民税等税額が控除されます。



本学マスコットキャラクター 「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大（みかんだい）」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成 21 年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。

公立大学法人

三重県立看護大学

〒514-0116

三重県津市夢が丘 1 丁目 1 番地 1

TEL 059-233-5600(代)

FAX 059-233-5666

<https://www.mcn.ac.jp/>



本学は、「大学教育質保障・評価センター」の定める大学基準及び「日本看護学教育評価機構」の看護学教育評価において「適合」の認定を受け、大学及び看護学教育の質について保証されています。

新病院建築プロジェクト進行中!

済生会松阪総合病院

看護師
募集中

看護で地域をつなぎ
いのちを支える



社会福祉法人
恩賜財団 済生会松阪総合病院

〒515-8557
三重県松阪市朝日町一区15番地6
TEL: 0598-51-2626 (代表)



手で触れて、みて、考える看護の実践
“看護の基本に忠実で、
心のこもった看護を提供します”

技術が生かせる楽しい職場!!
看護師募集



伊賀市立
上野総合市民病院

〒518-0823 三重県伊賀市四十九町831番地
☎ 0595-24-1111 ☎ 0595-24-2268
✉ kango@iga-med.jp 🌐 https://www.cgh-iga.jp/nurse/



藤田医科大学 七栗記念病院
FUJITA HEALTH UNIVERSITY NANAKURI MEMORIAL HOSPITAL

看護部の詳細はこちら



生きることを支える看護



藤田医科大学七栗記念病院 〒514-1295 三重県津市大鳥町424番地1 TEL:059-252-1555 nanakuri@fujita-hu.ac.jp